



朝礼スピーチ集



(介護員 濑戸口有希)

私の次男は、4歳になつたばかりのやんちゃ盛りで家では4つ上の姉と3つ上の兄を見ながら育つたせいか、いたずら具合が度を越しています。ある日家の前で遊んでいた時、目を離すと車の屋根に上がって踊っていたり、家族で動物園に行った時も目を離した隙に柵の中に入り、柵の中に入る猿さんに引っ掛けられて大泣きしていました。やりとりびっくりするようなことをします。そんな一面もありますが、寝るときは「ママ大好きだから一緒にねる」と言って毎日一緒に寝て、「ご飯を食べるときは膝の上に乗つてきたりと甘えん坊な所もある憎めない次男の保育園での出来事をお話ししたいと思います。

兄弟の中でも大きく生まれ4月生まれということもあり、クラスのみんなより身長が頭一つ分大きく、「給食も1番に食べ終わるおやつも1番に食べてました。」とお伝えに行くとよく先生から聞いていて元気に過ごしているんだなあと安心していました。4月になつて新しいクラスになり、新しいお友達が加わったようで、慣れない保育園生活で泣いてしまう子もいたのですが、次男が側で「大丈夫やで」と頭を撫でたり、おやつに出るスキムミルクが苦手でなかなか飲めず、一人残ってしまった子がいたそうですが、向かいの席に座り飲み終わるまでじつと待つていてあげたそうです。そんな次男の話を聞くと知らない間に成長しているんだなあと感慨深く、私も普段慌ただしく過ぎている毎日の生活に少しでも、目を配つていける余裕と時間が必要だなあとと思いました。

（介護員 濑戸口有希）

5月8日は母の日、6月19日は父の日、皆さんは何か考えましたか？今日は両親の話をしたいと思います。父はフエリーの機関士をしておりました。船員の定年は、58歳です。年金はその後すぐにもらえ、金銭的に問題も無い為、明石に住んでいましたが、父の日に淡路に行きたいと…。兄と私は淡路でも水仙郷の近くなので山いった時は大変よ！と少し反対しました。しかし父はその時は「コロッと死ぬから大丈夫や！なんて笑い話でしたが今現在父は今年85歳、母は81歳になります。最近では買い物、病院と車で行かないと無理な為、山が沢山あるので洲本に行くと聞いた時は高齢運転で毎回ヒヤヒヤ、ドキドキしながら仕事しています。なかなか返納もしてくれず…。先日今年までと約束してくれました

が、今までは快適に過ごしていただみたいですが、本人達も一番困っているのは出かける時だそうです。これから定年後など田舎暮らしを考えている人はよく調べてから決めて下さい。

まだコロナ禍ですが、そんなことも言ってられずできるだけ病院等、運転してあげたいと思っています。先日母に、私はとても元気なのでバリバリ仕事ができ、健康に産んでもらってほんと感謝するわ！と言ったら、その言葉がどんなプレゼントよりも嬉しかったと喜んでいました。

（調理員 吉田裕子）

（生活相談員 田渕桃香）

編集後記



（介護員 柏田朝花）

朝夕の風に涼しさを感じられるこのごろ、いかがお過ごしでしょうか。

今回は、新たに始まった「のんびりカフェ」や「ご利用者の日常の様子、それぞれの職員の想いがたくさん詰まった内容となっています。

年3回発行している広報誌「はな華」は、今年で24年目を迎え、今回で記念すべき70号となりました！表紙のレイアウトモリニユーリアルし、これからも皆様に楽しんで頂ける「はな華」を発行していきたいと思いますので、今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。



特別養護老人ホーム 清華苑だより

はな華

70



社会福祉法人 三幸福祉会
清華苑
miyukifukushikai seikaen



仲良く一緒に手を繋いで歩かれていたM様とT様。微笑ましい瞬間をパシャリ！

2022年9月15日 第70号
発行：社会福祉法人 三幸福祉会 特別養護老人ホーム 清華苑
発行人：総施設長 池田昌弘 編集：SEIKAEN Design Lab
〒674-0051 明石市大久保町大窪 3104番1
TEL 078-934-0800 FAX 078-934-0830 https://seikaen.jp

ご入居者の命を守る BCPの策定

施設長 岩西太一

さわやかな秋空の季節となりました。皆さまにおかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より一方ならぬお力添えにあずかり、誠に有り難うございます。新型コロナウイルスが日本国内で初めて確認されてから早くも2年半以上が経過しております、「ご入居者、ご家族をはじめ地域の皆さんには長期間大変な不便をお掛けしていることを心苦しく思っております。

新型コロナウイルスに限らず、全国各地で地震や大雨による水害等の大規模な災害が発生していることなどから、国は全ての福祉事業所に令和6年3月末までにBCP（事業継続計画）の策定を義務付けました。私たちはご入居者や地域のセーフティネット機能として事業を休止することが出来ないという宿命を有し、24時間365日サービスを止めることが出来ません。

特養清華苑では法人で先駆け、自然災害におけるBCPを今年初めから作成開始しました。作成する中で様々な問題に直面しました。サービスを中断させかねない緊急事態を洗い出し、それに対する備えを検討することから始めました。地震・水害などの自然災害、そして感染症はもちろんですが、それ以外に発生すると当苑のサービス提供に支障があるものがないか、職員は発災から何分で施設に到着できるのか、各種ライフラインが止まつた時

にどのようにサービスを継続していくかなどを様々なケースの検討を重ねてきました。

それが約半年を掛けて、やっと形にすることができました。今後は出来上がったBCPを用いて、全部署で発災を想定したシミュレーションを行い、職員一人ひとりが災害対応に関する知識を深め、「ご入居者の命を第一に行動を取ることが出来るようにしていきたい」と考えています。

BCPに完成ではなく、訓練の経験や手順などの情報を取り入れ、担当者だけでなく全職員で考え共同で「更新」していくかと思います。私たちは「ご入居者の命を守る」ことを最優先にBCP作成にあたり、その過程で「職員の安全を守る」「利用される方のために事業を継続する」ことの重要性に気付かされました。これからも当法人・特養清華苑の防災・減災を強化すると同時に、ご家族や地域の皆さんと支えあえる関係性を継続しながら、起こればさまざまな災害に強い清華苑グループを目指してまいります。



統括部長のコラムコーナー

二刀流で活躍しよう！

統括部長 田村智之

今や「二刀流」という言葉は、アメリカ大リーグのエンゼルスで「投手×打者」として大活躍している大谷翔平選手の代名詞とも言えます。

大谷選手のおかげですっかりおなじみになった「二刀流」、そもそもは「二刀流」とは右手、左手それぞれに刀を持って戦う剣術、戦い方のことを指しており、そこから転じて二つの異なる手段をもって事にあたること、あるいは同時に二つのことを行うこと意味するようになったそうです。大谷選手が活躍するまでは、「二刀流と言えば剣豪 宮本武蔵を思い浮かべる人も多かったのではないか」と考

えます。おそらく、自分も投手をしているからこそ、相手の投手のピッチャー心理を読み解くことができ、打者としてのバッティングに活かすことができているという人もいるでしょう。

さて、世間に目を向けると野球以外にも色々な二刀流で活躍している人たちがいます。せっかくなので私たちのフィールドでもある



医務室だより

原点回帰 心に寄り添う看護

看護主任 大島さおり

暑い日が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。栄養のある食事と充分な睡眠をとり暑い夏を乗り切りましょう。

先日、用事で病院に行ったのですが、待合室には大きめのテレビが掛けてあり、様々な情報や病院のPRが流れています。今日はここへ受診に来られた方からのメッセージ動画が流れていきました。内容は次のようにしていきたいです。

- ・みんなともやさしく接してくれた。
- ・もうだめかと思つたけど助けてくれた。
- ・よく話を聞いてくれ丁寧に説明してくれた。
- ・ここへ来て良かつた。



など様々でした。どれも感謝の気持ちと優しい言葉であふれていて胸がいっぱいになりました。

こここの院長先生の言葉に「この病院に来て良かったなあ」と言つていただけるDRを指します」とありました。清華苑の理念と一緒に、親近感と共にとても嬉しく思いました。

丁寧な説明や優しい言葉をかけ、笑顔からは安心感がうまれ、やがてその積み重ねが信頼へと繋がっていくのだと思います。苦しんでいる人、悩んでいる人、困っている人に気づき、そつと手をさしのべられる看護師でありたいと思い続けてきましたが、それでも初心に返った気持ちになり、心が洗われる思いでした。

これからも初心を忘れず目標に向かって日々精進していきたいと思います。
まだまだコロナ対策の生活が続いておりますが、皆様が健やかに笑顔でいて欲しいと願っています。



気持ちをこめて「のんびりカフェ」をオープン

介護員 佐藤まどか

コロナ禍で楽しみが減少、様々な制約があるなか、あるご利用者から

「おいしいものが食べたい。どこかに連れて行ってほしい」

という声をヒントに施設内でカフェを開いたいと思いました。人はおいしいもの、甘いもの食べる自然と笑顔になります。こんな時だからこそ利用者に笑顔になって頂きたいと思いました。

カフェを企画するにあたり、SDGsを取り入れていきたいと思いました。食器などを揃えることも出来ますが、それだと食器に統一感がうまれ画一的になってしまいます。

それなら「使えるけど使っていない、捨てるにはもったいない！」お家で眠っているお皿を寄付していただけないかと思いました。

そこで、他の職員にお皿の寄付をお願いしました。初めての試みですごく不安もありましたが、一ヶ月程で色、形、柄、大きさが異なるいろいろなお皿がたくさん集まりました。お皿一つで、懐かしさや、温かみを感じられます。「ご利用者に喫茶店に来て頂いてる様な感じでゆっくりと過ごして頂きたい。そんな想いを込めて、「のんびりカフェ」と名付けました。カフェOPEN当日。「ご利用者は直前に声をかけさせて頂いたため、「何があるの？これからどこへ行くの？」

と少しワクワクされた様子が見られました。ご用意したデザートを目にすると、「うわ～。素敵！美味しい！」

「私誕生日ちがうで！」

と喜びの声が上がりました。パクッと口にすると、頬は緩み口角が上がるご利用者の姿や、普段言葉数が少ないご利用者の口数が増えなど変化も見られました。

数日たってからも

「今度いつあるの？今度は何が食べられるんだろう？」

と楽しみにされていました。まだまだ本物の喫茶店には敵いませんが、季節折々のデザートをお出ししたり、「ご利用者のリクエストも取り入れながら楽しく笑顔いっぱいの喫茶店にしていきたいと思っています。

これからも「清華苑の喫茶店へ行こう！」

というご利用者同士の声を聞けるのを楽しみにしています。

これまで、他の職員にお皿の寄付をお願いしました。初めての試みですごく不安もありましたが、一ヶ月程で、懐かしさや、温かみを感じられます。「ご利用者に喫茶店に来て頂いてる様な感じでゆっくりと過ごして頂きたい。そんな想いを込めて、「のんびりカフェ」と名付けました。カフェOPEN当日。「ご利用者は直前に声をかけさせて頂いたため、「何があるの？これからどこへ行くの？」



名前

介護員 小川俊亮

名前というのはその人にとってどういった価値を持つのでしょうか。ただ単に個人を識別するためなど色々と感じるところはあると思います。

私が名前に對して思っている事は、この施設に入職するまでは、特に考えたことがありませんでした。名前を呼ぶのが当たり前、呼んでもらうのが当たり前、といったことが普通でした。しかし、ご利用者と日々を過ごしていく内に名前の大切さを考えるようになりました。

私は、昨年度の新人職員として働き始めました。特養には、100名を超えるご利用者が生活しており、顔と名前を一致させ、覚えることに四苦八苦したことが昨日のことのように思い出します。

ご利用者と接する時に名前を呼んで接することは相手に対する敬意を払う事の一つだと思います。しかし、私自身が自分の名前をご利用者に伝えることはありませんでした。理由として、自己紹介をする恥ずかしさと伝えても忘れられました。

しまったら、と想像したときの寂しさがあったからというのが挙げられます。そんな私も今は独り立ちをしています。そして、同時に二人のご利用者のケース担当になりました。ご飯の話、自分の趣味の話、体調の確認など様々な会話からコミュニケーションを深めました。

ケース担当をしているご利用者のA様に積極的にコミュニケーションを取ることを続け、一ヶ月半経過した頃、A様が話しかけてくださるようになりました。聞き取りが難しいのですが、A様は私に何かを一生懸命伝えようとしていました。A様は、「お名前は?」と尋ねているように聞こえました。私が聞き返すと、「うんうん」と頷かれます。その瞬間、とても心が満たされる感じがしました。そして、名前を呼び合うことによって新たな信頼関係を築くことが出来るとも感じました。A様は、今でも、私の名前を呼び、お話をしてくださいます。



STAFF VOICE

スタッフボイス

特別養護老人ホーム 清華苑

介護、看護、相談員、調理、事務、それぞれの部署で働くスタッフの生の声をご紹介します。



社会福祉法人 三幸福祉会

清華苑

miyukifukushikai seikaen

相談員 北野里奈

仕事を覚えていく中で、どのようにご利用者と関わりたいのかを考える日々は目まぐるしく時間が過ぎていきます。

そんな中、ほっと心が温まる時間は、ご利用者のやさしい笑顔や温かい言葉に触れた時です。

ふとした瞬間に、「優しそうな顔をしているね。優しいのが一番やね。」

と言って下さることや、手を握り返しながら「ありがとう。好きよ。」と微笑んでくれるご利用の方からいつも元気をもらっています。

私自身はご利用者を笑顔にできているのか、心が安らぐような関わりをできているのかと不安になるとき、このような言葉を思い出すときになります。

NOTE

仕事を覚えていく中で、どのようにご利用者と関わりたいのかを考える日々は目まぐるしく時間が過ぎていきます。

そんな中、ほっと心が温まる時間は、ご利用者のやさしい笑顔や温かい言葉に触れた時です。

ふとした瞬間に、「優しそうな顔をしているね。優しいのが一番やね。」

と言って下さることや、手を握り返しながら「ありがとう。好きよ。」と微笑んでくれるご利用の方からいつも元気をもらっています。

私自身はご利用者を笑顔にできているのか、心が安らぐような関わりをできているのかと不安になるとき、このような言葉を思い出すときになります。

